

慢性腎臓病とは？

新たな国民病

慢性腎臓病患者約1330万人
(成人の約8人に1人)
人工透析患者 26万人
(毎年1万人ずつ増加、
特に糖尿病性腎症が増加)

CKDとは

下記のいずれか、または両方が3ヶ月以上続いている状態。

腎障害

たんぱく尿(微量アルブミン尿を含む)などの尿異常、画像診断や血液検査、病理所見で腎障害が明らかである状態

腎機能の低下

血清クレアチニン値をもとに推算した糸球体濾過量(eGFR)が60ml/分/1.73m²未満の状態









(日本腎臓学会編「CKD診療ガイド」,2007より)

初期は全く症状がないため腎臓が悪くなっていることに気づかない

体調の悪化に気づいた時は腎臓の状態はかなり悪くなっています


症状がないうちから自分の腎臓の状態を知るには？

- ① 毎年受ける職場の健診の項目にクレアチニン(血液検査)が入っていることが必要
- ② クレアチニン値と性別・年齢から腎臓の状態を確認できます


病期(ステージ)	重症度の説明	進行度による分類 GFR(ml/分/1.73m ²)	残された腎臓の働き
	ハイリスク群	90以上 (CKDのリスクファクターを有する状態で)	
1	腎障害は存在するが、GFRは正常または亢進	90以上	
2	腎障害が存在し、GFR軽度低下	60~89	
3	GFR中程度低下	30~59	
4	GFR高度低下	15~29	
5	腎不全	15未満	

(日本腎臓学会編「CKD診療ガイド」,2007より一部改変)


こんな人は要注意です!




高齢者




高血圧や糖尿病、肥満などの生活習慣病やメタボリックシンドロームがある




過去に心臓病や腎臓病になったことがある



家族に腎臓病の人がいる



検診などでたんぱく尿が見つかったことがある



たばこを吸っている

郡山保健所では、生活習慣病対策のひとつとして慢性腎臓病対策に取り組んでいます。